

らい 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 120 9月号

2015年9月1日 発行
たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469

新宮図書館 TEL(0791)75-3332

揖保川図書館 TEL(0791)72-7666

御津図書館 TEL(079)322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>



携帯専用サイトへは、
左のQRコードから
(<https://www.lib015.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

読書と私 No.112

闘う武士「正岡子規」を想う

揖保川町 永富 千幸

「聞子規」

一声孤月下 啼血不堪聞

夜半空欹枕 古郷万里雲

(ぼつんと空に一つかかっている月の下でほととぎすが一声鳴いた。その声は^{せいろ}凄涼で聞くに堪えない。夜中に枕を^{そぼだ}敬て聴くと、遠い雲の彼方にある故郷がしみじみと思われる)

この漢詩は正岡子規11歳の作です。11歳といえば小学5年生、いくら明治の人でも誰もがこんな漢詩を作れたわけではありません。

子規は、明治の前年に武士の家に生まれ、幼いころから武士として厳しく育てられました。小学校に上がるまで外出には腰に小刀をさし、学校でも最後まで鬚を切らせてもらえなかったと言われています。また6歳からは、武士の教養である漢文の素読を始めます。この詩はそうした教育の成果だったのです。そして大学に入って、西洋から入ってきたばかりの学問にも触れますが、生涯自身の漢詩集を手元から離しませんでした。21歳の時咯血します。結核だったのでしょう。当時結核は不治の病でしたが、その後14年間の子規の活動は様々な文学のジャンルに及び、漢詩、和歌、俳句、小説、紀行文、写生文、新体詩、随筆、評論など、まさに命を削っての活動だったと思います。いわゆる「写生」で文学を革新していったのです。かつての武士としての、社会を担う者としての誇りが、病を得たことにより、文学での貢献に向かわせたのだらうと思います。そうでないと骨に穴が開く脊椎カリエスの苦痛の中で、寝たきりになりながら、25冊に及ぶ全集ができるほどの作品を作り続けることはできないでしょう。子規はまさに、武士として死と隣り合わせで闘い続けたのだらうと『子規全集』は私に教えてくれ、想像させてくれます。これまでの子規のイメージとは違う子規が、全集の中から現れてくるのです。このように読書は私にとって、自由な想像に誘い、新しい発見をさせてくれる思索をもたらす源泉だと言えます。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『なぜ日本はジャパンと呼ばれたか』 中室 勝郎 著 六耀社



16世紀、大航海の時代に多くの西洋人が日本で見聞したことを本国へ伝えた。当時、陶磁器をチャイナと呼ぶのに対し、日本人の食器であった漆器はジャパンと呼ばれた。それは、黄金で描かれた

蒔絵が施された漆器が、黄金の国・ジパング伝説に由来したものである。

しかしながら、現在の日本の漆芸は生活から遠くなっている。本書は、日本人の魂の器といわれた漆器と日本人の関係を解き、忘れられていた日本の美のかたちについて述べている。

「水桶にうなずきあふや瓜茄子」という与謝蕪村の俳句がある。これは、漆器の水桶の中で浮かんで、頭をぶつけている瓜や茄子のように初対面の2人が、互いに意気が合い、それぞれにうなずき合う様子を描写している。漆器は、

熱いものが冷めにくいという保温力があることで知られているが、意外にも氷が溶けにくい夏の器でもあった。そして漆の黒や艶が十分に涼感を演出する。また、使うほどに艶が増し、包まれるような優しさが実感できるという。本来、日本人は花見、月見、紅葉見と自然の中で飲食を愉しむことを得意とした民族であった。つまり、生活文化から見て、日本の美のかたちとは自然とアートが生活に融合しているスタイルといえる。

著者は、岩手県で日本最大の漆の森を作り、ウルシノキの栽培から自家精製を行っている。そして中世の技術を超える職人を育て、日本の伝統的な漆器づくりのみを行い、輪島に塗師文化を構築するための「塗師の家」を再生した。

古くから日本人の精神や文化、芸術や生活に関わってきた漆芸を後世にも残していきたいと思わせる一冊である。（揖保川図書館 竹内）

トピックス

図書館の特別整理日について

特別整理日は、本の点検や移動作業などの開館中にはできない作業をします。

—例えば—

図書の移動・・・より利用しやすくするために、開架の本を閉架書庫に入れたり、閉架書庫の本を廃棄したりします。

設備点検・・・館内の設備のメンテナンスと清掃をします。

蔵書点検・・・館内の資料の状態を確認、点検します。

以前は、曝書(ばくしょ)とも呼ばれていました。曝書とは、図書の虫干しのことを意味する言葉ですが、現在では虫干しではなく右記の作業等をするため特別整理と呼ばれています。

【日程】 揖保川図書館 9月30日(水)～10月 6日(火)
(注) 29日(火)は振替休日

龍野図書館 10月 6日(火)～10月14日(水)

新宮図書館 10月12日(月)～10月22日(木)

御津図書館 10月20日(火)～10月25日(日)

ご不便をおかけしますが、ご協力をお願いします。

この期間の図書の返却は、開館中の図書館や返却ポストへ返却してください。ただし、DVD・CDなど壊れやすいものは開館後に図書館窓口に返却してください。

おすすめする子どもの本・111

『せかい1おいしいスープ』 マーシャ・ブラウン 再話・絵 ペンギン社

3人の空腹な兵隊がある村で食べ物を分けてもらえるよう頼みます。けれども村人たちは兵隊たちの到着前に食べ物を隠し、不作などを理由に断りました。

そこで、兵隊たちは「石のスープ」を作ることにしました。村人たちは「石のスープ」に興味津々です。まず大きな鍋を用意してもらい、水をたっぷり入れて火にかけました。次に丸いすべすべした石を3個持ってきてもらいました。そして兵隊たちが塩と胡椒が必要だと言うと、子ども達が走って取りに行きました。「人参があればずっとうまくなるのになあ」と言う、村人は隠しておいた人参を出してきました。兵隊たちの一言で村人たちはキャベツや牛肉、じゃがいもなど次々に食材を出してきて、

ついに王様が食べる様なスープができあがりしました。

村の広場にテーブルが並べられ、美味しそうなスープ

の匂いが漂うと、村人たちは更にパンや焼肉などのご馳走を並べました。

朱と黒で描かれた挿絵は表情を豊かに伝え、はじめは拒んでいた村人たちが兵隊たちの言葉にのせられていく様は痛快で、美味しいスープをみんなで分け合う姿に読み手も満足します。読んであげるなら、5歳ぐらいから。
(新宮図書館 井口)

『点子ちゃんとアントン』 エーリヒ・ケストナー 作 池田香代子 訳 岩波書店

お金持ちのお嬢様の点子ちゃんと、貧乏な家の男の子アントンは親友です。点子ちゃんの両親は忙しくて娘をかまってる時間がなく、いっぽうアントンは2人きりで暮らしている母親が愛情を注いでくれましたが、病気で生活は苦しいものでした。アントンは家計を助けるために毎晩靴ひもを売る仕事をしており、点子ちゃんもその傍で養育係と2人で、貧乏な母子の変装をしてマッチ売りをしていました。養育係がろくでなしの恋人に渡すお金を稼ぐのを、両親には内緒で手伝っていたのです。

夜遅くまで働くアントンは学校で居眠りばかり。怒った担任の先生が母親宛てに手紙を書こうとしていると知った点子ちゃんは、先生を説得して手紙を書くのをやめてもらいます。

ある日泥棒が点子ちゃんの家に入ろうとしますが、計画に気付いたアントンが機転をきかせて事なきを得ます。点子ちゃんの父親はアントンに感謝し、アントンの母親を点子ちゃんの新しい住み込みの養育係にすること、つまり皆で一緒に暮らすことを提案するのです。

軽妙なタッチで描かれた登場人物や筋運びがユーモラスで、信頼できる友人がいる事の嬉しさ、家族の繋がりや温かさを感じさせてくれます。小学校4年生ぐらいから。
(揖保川図書館 二井和)



各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館名	行事	対象(上段) ・ 時間(下段)	9月の予定
龍野図書館 TEL(0791) 62-0469	●えほんのじかん	1～3歳児、保護者 ----- 第2・第3土曜日(11時～11時20分)	12日・19日 『くつつあるけ』他
	子どもの本を読む会	一般 ----- 第2木曜日(10時～11時30分)	10日 『なつかしい本の記憶』 岩波書店編集部 編
	読書会	一般 ----- 第2金曜日(10時～11時30分)	11日 「侘しすぎる」 佐藤 春夫 著
新宮図書館 TEL(0791) 75-3332	●えほんのじかん	2～4歳児、保護者 ----- 第2・第4月曜日、第3日曜日 (11時～11時20分)	14日・20日・28日 『おべんとう』他
	■おはなしのじかん	5歳児～ ----- 毎週土曜日(10時15分～10時45分)	5日・12日・19日・26日 『ブレーメンのおんがくたい』他
揖保川図書館 TEL(0791) 72-7666	●えほんのじかん	3～5歳児、保護者 ----- 第2・第3土曜日(10時30分～10時50分)	12日・19日 『ティッチ』他
	■おはなしのじかん	小学生以上 ----- 第2・第3土曜日(11時～11時30分)	12日・19日 「ふしぎなたいこ」他
	読書会	一般 ----- 第3金曜日(10時～12時)	18日 『舟を編む』 三浦 しをん 著
御津図書館 TEL(079) 322-1007	●えほんのじかん	1歳～4歳児、保護者 ----- 第2・第3日曜日(11時～11時20分)	13日・20日 『おつきさまこんばんは』他
		5歳児～ ----- 第2・第3日曜日(11時30分～11時50分)	13日・20日 『だいくとおにろく』他
	読書会	一般 ----- 第2火曜日(13時30分～15時30分)	8日 『稲穂の海』 熊谷 達也 著
	古文書を読む会	一般 ----- 第2土曜日(13時30分～15時30分)	12日 古文書の解説